

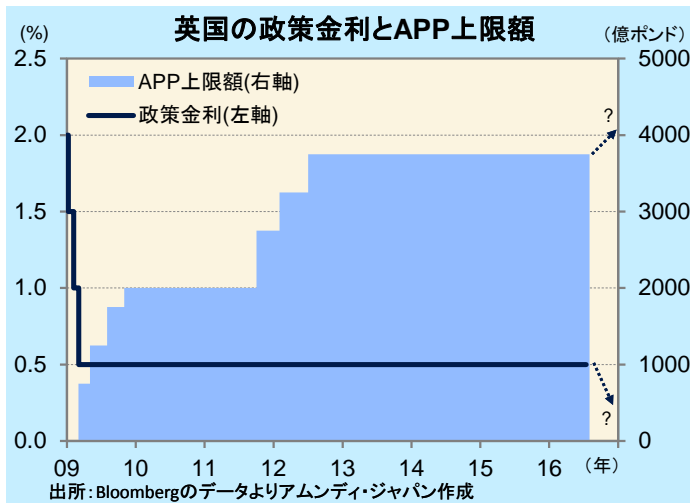


# ズームイン英国 (マーケット情報版)

## 英中銀、8月の追加緩和濃厚

7月13-14日、イングランド銀行(以下、英中銀)がMPC(金融政策委員会)を開き、政策金利0.5%、APP(資産購入プログラム)上限額3750億英ポンド(以下、ポンド)を据え置きました。

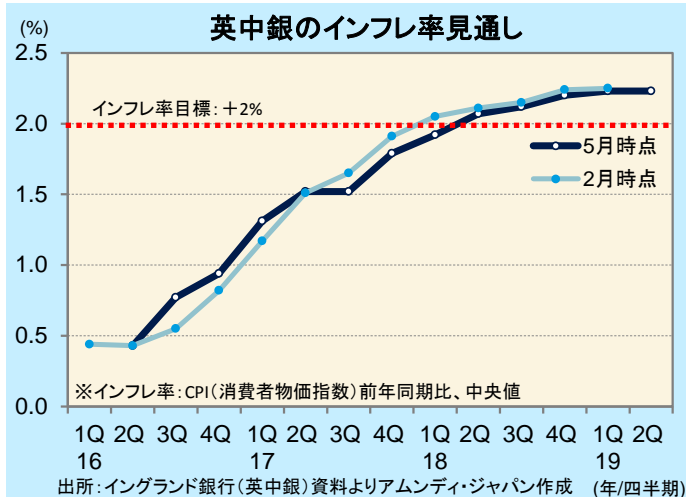
市場では、今回の委員会で利下げを実施し、APP増額も有り得るとの見方が大勢でしたが、Brexit(英国のEU[欧州連合]離脱)決定後の経済情勢が不明確なため、次回会合(8月3-4日)へ判断が持ち越された形です。なお、8月4日はインフレーション・レポート(四半期毎)が発表される予定であり、景気・物価見通しの内容を確認後、追加緩和が実施されると予想されます。



## インフレーション・レポートでは物価の下方修正の度合いがカギ

インフレーション・レポートでは、インフレ率、実質GDP成長率、失業率などの予想が発表されますが、なかでも金融政策と最も強く関係してくるのはインフレ率です。

英中銀は、前々回(2月)から前回(5月)のレポートにかけて、インフレ率目標の+2%を回復する時期を18年第1四半期から第2四半期へと後ずれさせており、今回はBrexitによる景気押し下げによって、さらにそれが遅れるとの予想が大勢です。英ポンド安がインフレ期待を押し上げるとい見方もありますが、それは短期的な影響と見られます。



Brexit決定による景況感後退を防ぐべく、  
英中銀は追加金融緩和に踏み切るという見方が大勢です！

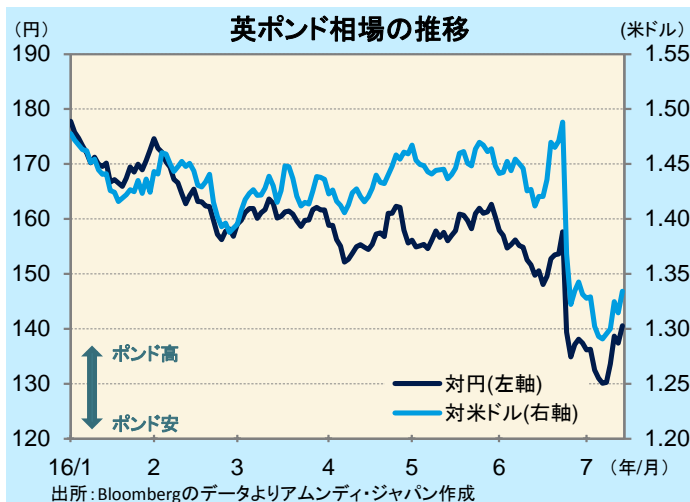




英ポンド相場は神経質な展開続くも、割安感強い

ポンド相場は、6月23日のBrexit決定直後から急落し、一時1985年6月以来の1ポンド1.3米ドル割れとなりました。しかし、7月11日、メイ内相の首相就任が決まり、政局混乱の早期收拾が好感され、やや値を戻しています。ただし、EUとの離脱交渉の行方は依然不透明であり、当面は神経質な展開を余儀なくされそうです。

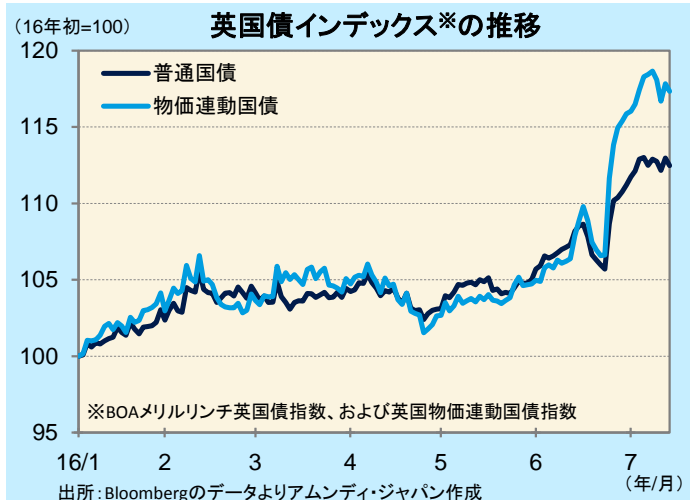
対円相場は、一時1ポンド130円を割り込みましたが、ポンドの対ドル相場の回復とドル高・円安とで、足元は140円台を回復しています。景気、金利、物価等からポンドの割安感は強く、市場心理が落ち着けば上昇余地も出てくると思われます。



世界的な低金利長期化観測から債券は堅調

英国債相場は堅調です。Brexitの影響で世界経済の先行き不透明感が強まったことが背景と見られます。6月27日、大手格付け会社のS&P (スタンダード・アンド・プアーズ) 社と Fitch Ratings (フィッチ・レーティングス) 社が英国の格付けを引き下げましたが、影響は限定的でした。

また、普通国債以上に物価連動国債が堅調です。世界的な低金利長期化観測に対し、ポンド安が短期的にせよインフレ率を押し上げるとの見方が強まったためです。ポンド安が実際のインフレ率に反映されるのはもう少し後であり、物価連動国債の相場は底堅い展開が続きます。



英ポンドは当面神経質な展開ですが、割安感は強まっています。  
また、債券相場は底堅い展開が予想されます。



## 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元金を割り込むことがあります。したがって、元金が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、全て受益者に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、お申込みの際は投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## 投資信託に係る費用について

投資信託では、一般的に以下のような手数料がかかります。手数料率はファンドによって異なり、下記以外の手数料がかかること、または、一部の手数料がかからない場合もあるため、詳細は各ファンドの販売会社へお問い合わせいただくか、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

投資信託の購入時: 申込手数料〔最高料率3.78% (税込)〕

投資信託の換金時: 換金(解約)手数料、信託財産留保額〔最高料率0.5%〕

投資信託の保有時: 運用管理費用(信託報酬)〔実質最高料率2.2312% (税込)〕、監査費用

運用管理費用(信託報酬)、監査費用は、信託財産の中から日々控除され、間接的に投資者の負担となります。間接的負担には、その他に有価証券売買時の売買委託手数料、外貨建資産の保管費用、信託財産における租税費用等が含まれます。また、他の投資信託へ投資する投資信託の場合には、当該投資信託において上記の費用がかかることがあります。

### <ご注意>

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、お申込みの際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## 【当資料のご利用にあたっての注意事項等】

当資料は、アムンディ・ジャパン株式会社(以下、弊社)が投資家の皆さまに情報提供を行う目的で作成したものであり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。当資料は法令に基づく開示資料ではありません。当資料の作成にあたり、弊社は情報の正確性等について細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に記載した弊社の見通し、予測、予想意見等(以下、見通し等)は、当資料作成日現在のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また当資料に記載した弊社の見通し等は将来の景気や株価等の動きを保証するものではありません。